

ADULT
COMICS

驕奢淫逸の ホメオスタシス





2013 WINTER
BAKURETSU FUSEN
PRESENTS



一体どうした
事なのだ
これは...??

あ...
あれ...

な、何を
しているのだ
俺は...?

あ...っ

あ...

何故指圧師と
俺とがこんな
状態に...っ



わ...分からん
ま、まるで
思い出せん
...っ

この女とは
このような
関係では
無かった筈!

...むしろ
まゆりを殺した
人間として忌み嫌うべき
存在では無かったか

はああ

はあっ



いや...確か
過去改変の為に
こいつのアパルトに
押しかけて...

おかべええ
ええ...っ

お...っ

一体どこで
どう間違っ
てしまったのか

ああっ

お、俺は
指圧師と
こんな...っ!

アッ



プサイ...
コンゲルウ...っ

え...
エル...っ

ピタッ
ブルッ

う...
う...っ

ピタッ

ピタッ



あ...っ

ハッ

はあ

ハッ

ブルッ

ブルッ

ブルッ

し、信じられん...
これもシユタインズ
ゲートの選択か...

だとしたら俺は
運命と言つやつを
恨むぞ...っ



く...っ
これで...

ハッ..



ピタッ

あ...あ

ハッ..

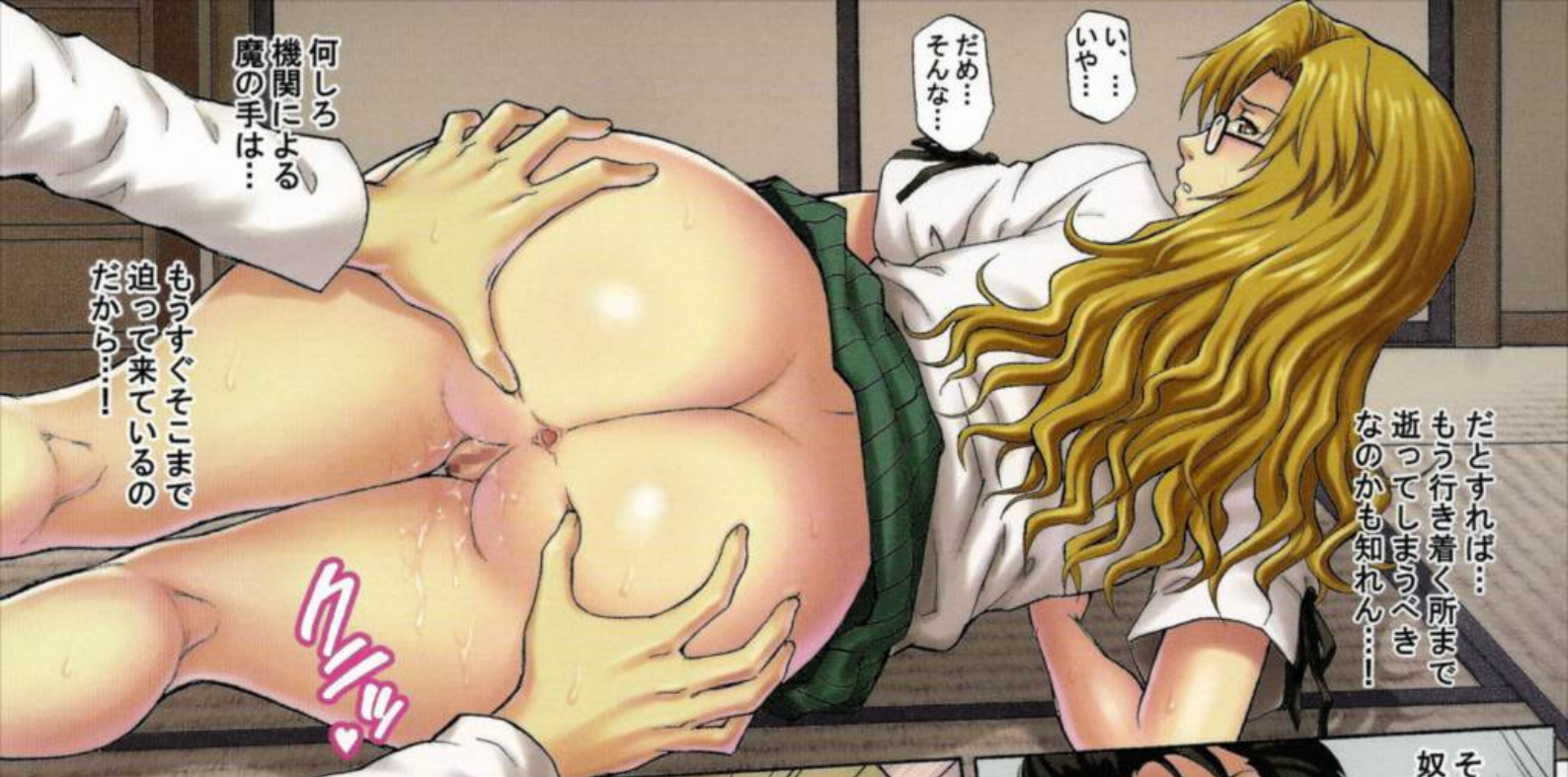
もはや...
肉欲の魔人との
盟約は成された

後は
邪教の儀式に
狂えるままに...
いや待て待て

お、岡部
君...

もしかすると
これこそが機関による
陰謀なのかも
知れん...

だ、だとすれば
俺は...っ!



何しろ
機関による
魔の手は…

だめ…
そんな…

いや…

だとすれば…
もう行き着く所まで
逝ってしまおうべき
なのかも知れん…!

もうすぐそこまで
迫って来ているの
だから…!

ヒュー



フウーハハハ!
ゆ、ゆくぞ
指圧師よ…っ!

ああっ

ア
ア
ア



そ、それこそが
奴等に対抗すべき…

ヒュー

最後の手段と
なる筈なの
だからな…っ



ああ…っ

あ…あ

く…っ、
こ、これが奴等に
よる差し金だと
いうならば
…っ!

俺は
とことんまで
抗ってみせる…

それこそが
俺に与えられた
宿命なの
だから…っ

ハア

ア
ア
ア

ヒュー

ア
ア
ア

フツッ
それこそが
マッドサイエン
ティストたる
俺…

あっ
ハアッ

鳳凰院狂魔
としての生き様
なのだから…!!

やあっ

だ、だから
指圧師よ…

ああっ

お、岡部
君…っ

エル、プサイ
コンゲルウ…っ

どっか
その目に焼き付けて
おいてくれ…!!

ああ
…っ!

そう…もはや
抗う事は叶わん…
共に行こう
無限の境界線の
彼方へ…!!

…っというか
すまん、俺…

実際の所、
動揺しまくってる
だけなんだ
けどな…
フウーハハハ…ハ

あ

あ

あ



あれから…
俺達は
まゆりが死なな
世界線への回帰に
成功し…

久しぶりに
安息の日々を
送っていたが…



岡部君…

のわあぁっ!!

だ、だから
何度も言ってる
だろう…っ

話しかけるなら
もっと普通に
接しろと…

……

08

く…

…どうも
あの一件以来…

指圧師には
妙になつかれて
しまった…

それでも…
以前の様に
すべてを携帯に頼る
わけでも無く…

多少ながらも
言葉が発して
コミュニケーションを
とる様になった
わけで…

そういう意味では
彼女なりに前進
しているの
かも知れない…

だとすれば
ラボメンの
一員として
非常に頼もしい
限りであり…

実に喜ばしい
状況にある
わけなのだが
…っ

ギッ

く…っ

ギッ



だが...その
彼女を理解する
行程の中で...

くっ...

それはこの...
他に類を見ない
圧倒的な質量感...

いや、今までも充分
存在感はあったの
だが...っ

んっ

し、しかし
これは...っ

ズッ

俺は指圧師の...
もうひとつの恐ろしさを
知る事となる...

はあ...

はあ...

おおお...っ
もう無理だあ
...っ!

もはや、他の
ラブメンの
追随をも許さぬ
この破壊力...!

ぬお...っ

んっ

んっ

あふああ

ビュッビュッ

あ...あ

立ち向かう
だけで精一杯なの
だから...っ

なにしろ
この俺ですら

ふう...

だが…
それだけ
ではない…

ハア…♡

この指圧師の
純粹なまでの
けなげさが…

より俺を
快樂へと誘う…

ん…ん

そうでなければ
この俺も…

あ…あ

お、岡部
君…

ああ…

ここまで
身を委ねる
事は
無かった
だろう…

はあ

それは…
ラボメン第一号
鳳凰院狂魔として
ではなく…

只の一人の
男としての
矜持…

はあ…っ

はあ…っ

あ…あ

キッ
キッ

これはもはや
状況的な流れから
派生した結果など
ではない…

は…っ

アッ
アッ
アッ

そう、それは
シユタインズ
ゲートの選択
…!

ああ…っ

はああ

きっと世界線が
我々をこういう運命に
結びつけていたの
だろう…

その決定には
何者も抗えない

あ…っ

だから俺も
それを受け入れる
だけ…っ

ああっ

え…
エル、プサイ
コングルウ

あ…あ
ああっ

く…っ

ああ…

もはや…迷い
などはない…





そう、もはや俺らには...

ああ...っ

お互いを求め合う衝動があるのみ...

それは決して穢れた情念のようなものではなく...

はあ...っ

はあっ

はあっ



純粋に本能からくる...

ああ...っ

おお...っ
で、出る

あ...あ

はああ...っ

混じり気の無い感情...

俺たちを支配する...っ

ここではそれだけが...っ

ああ…っ

そして絶頂を
迎えた指圧師の
顔には…

うっすらと
柔らかい愉悦の
表情があった…

後日この件については
ラボマン全員に
報告した。

まゆりあたりは素直に
受け入れてくれた
ようだったが…

まあ、これが俺達の
あるべき形だったと
言う事なのだろう…

「リア充には
死あるのみ」
などと到底受け入れ
ようとしなないダルと

微妙な反応の
助手の態度が気になる
所ではあったものの…

そう…
きつとこれこそが
本来の…



…と
いうような
世界線が

あったとか…
無かったとか



もはや俺の
リーディング
シユタイナーを
もってしても
その辺の事は
不明だが…

それはさておき
少々困った
状況になりつつ
ある…

「助手」の
事なんだが…



奴め…この所
妙に委員長化が
進んで来ている
ようだな…

ラボ内においても
妙に反抗出来ない
雰囲気醸し出して
いてな…俺やダルも
容易に近寄れん…

ひよっとすると
先程の世界線が
何か関係している
のかも知れんが…

このままでは
あの女にラボを
占拠されかねん…





あとは
計画通り
助手のヤツに

例の作戦を
決行するのみ
……!



ふふふ…
よしよし…!!

僕モ
フェイリス
たんの所へ

丁度首尾よく
あの二人は出て
行ってくれる
ようだな…!!



クリス
ティーナ
っ!!



あー
おぼん



いつまでも
アホみたいな事
ばっかり喚いて
るんじゃないか!

いい加減
その程度の事位
理解できる脳みそ
持ちなさいよ



ああ?何よ
うるさいわね
…

大体私は
助手でもクリス
ティーナでも無いと
いっとろうが!



この女…!
…
…
…

ぐ…っ

?!!



フツ…だが俺に背を向けたのは失敗だったな

見ろ…完全に背中が空きたぞ……!



フフ…無防備な奴め……!

喰らうがいい我が計略を……っ!



クク…動揺してる動揺してる

まあお前のそんな所も可愛くはあるが…



なにしろこいつは根っからの不器用なのだ

とにかく不快に思っていたのなら謝ろう…



この手のアプローチは最も不得手とする所のはず…!

だからもっと機嫌を直してくれないか…?



あ…

クク…さあどう出る?



おっ…おお岡部?!!

な、何してんのよアンタ…!

まったく…何をカリカリしているんだお前は…

そんな風に眉間に皺を寄せていては折角の顔が台無しではないか…



私は…その岡部として優しくして欲しいの…

鳳凰院狂魔
じゃ無くて
岡部倫太郎
として…



じゃ…



じゃあ…
こんなの
やめてよ…



待って待って！
俺はそんなつもりでは
なく…！
いやそもそも
何か正解
なのか
知らんか！

ただ
動揺しまくる
助手を見て
愉しもうと…



なっ…
何い？！

何なのだ
この超絶展開
は…っ？！

ピキ

ピキ

カッ



それを
まさかこんな…
真剣に受け止められる
とは…

せいぜい…
このような展開に
落ち着くものだ
と
思っていたのに…



だが…いくら自らの軽率な行動が原因とはいえ…

こうなってしまった以上もはや…っ

お…岡部…



うう…そんな目で見つめるんじゃない…っ

こ、こっちまでドキドキしてしまうではないか…っ！



お、俺も芋を引くわけにはいかん…っ

あ…っ！

よからう…!! 正面から受けて立ってやる…っ



俺らの関係はただそれだけにある善なもの…っ

お前はその助手に過ぎん…



お、お前も分かつているはずだろう…

お、俺はマッドサイエンティストであり



ああ…とっとう踏み込んでしまった…

いつか…このような展開になるのではという気もしないでは無かったが…

ふう…ん

ふん…っ！



い、いいのがこのままだと俺達は…っ

科学の世界に恋愛も幸福も関係ない…そうだろう…?



…やはり尻の蒙古斑が気になるか?

あるか!
ンモもん!



我々の間に余計な気遣いなどもはや不要のはずだ

で、でもわ、私にだって羞恥心ってモンが…



ならば何の問題も無い

や…っ
だめ…っ



その、少々言い辛い事ではあるが

あー、その助手よ…

あ…っ
やあん…っ



?!

それで強引にならざるを得なかった… すまん



う…うむ見事だぞクリステイーナよ…っ

♡♡♡♡♡



う……う……
行くぞ……っ

ヒン

うひやあっ



最初だから
少々怖いかも
知れんが……

どうか
受け入れて
欲しい……

や……っ
そ、そんなあ
岡部え……

グッ



そ……
ま、前じゃ
なくて……その
お尻……っ

な……っ
そ、そんな
バカな……っ



お……おお
岡部えっ

あ、アンタ
どこ挿れてる
のよ……っ

な……
何い？



やあ……っ
抜いてえ
……っ!!

ぐ……っ
ぐお……っ?!



そ、そんな俺とした事が…っ

はあ?!何言ってるのよ…っ

ふん…っ

だ、ダメだ抜けん…っ

ほ、本当なんだ、凄くきつくて…っ

い、いいから早く何とかしなさいよ…っ



く…っこの…っ

や…っばかあ

あ、あんま動かないでよお…っ



ぬ…っぬお…っ

い、いかん出そうだ…っ

ぐお…おす、すまんっ

い…っいやああ…っ!

む、無理だもう…っ!

や、やだあふざけんなそんな…っ



ハア...ハア
ははは...

ハア...
や、やっと
抜けたな...

はあ...っ
は...っ
はあ...っ



お...っ
お...っ



んあああ
ああんっ!



う...っ



あ、アンタ
ねええ...

お...お
岡部ええ



で、では
仕切り直して
もう一度...っ

え...ええ
ま、まだ
やるの...?



あ...っ

は...はは
すまん
すまん

ちよっとした
可愛い手違い
ではないか



やん...っ

無論だ、こんな不本意な形で終わらせるのは嫌だろう？

お…岡部え

こ、怖いよお…っ

心配ない大丈夫だ

ん…そっそんな事言われても…

ええい…！

だからその表情はやめいと言っに！

あ…ん…っあ、熱い…っ

も、もっと体を楽に…っ

あ…あ…っは、入ったあ…あ…っ！

お、落ち着け助手よ…っ

く…っ

あ…っはあ…っ

そ、そ…っだゆっくり動くぞ…っ





あ…っ
はあ…んっ
岡部ええ

む、無理
だよお
こんな…っ

く…っ
くお…っ

す、凄い
締まる…っ



ああ…んっ
だ、だめえ

い、いくぞ
もう…っ！

わ、私
もう…っ



な、何か
不思議な
お、おかしく
なっちゃう
気持ち…っ

だ、大丈夫だ
受け入れる
このまま…

あ…ああっ
す、凄く
熱い…っ



ん…もう
バカ…

フッ

お…
お…

もはや…最後の
一滴まで出し
切ったようだ



あ…ああっ
やだ…っ
うそお…っ

ビュルルッ

ビュルッ

先刻あんなに
出したのに
また…っ



ん…

ふ…っ

俺も
随分と…

ハリキリ
過ぎて
しまった
ようだな…



我ながら
罪作りの男だな
まったく…

やれやれ…
それにしても

フッ…



ん…

ふう…一応
ミッション
コンプリートと
言った所か…

まったく
世話のかかる
助手だな
お前は…



あ…いえ
何でも…っ

…しかし
力関係は
相変わらず…

ちょっと…
何が笑しい
のよアンタ…

奥付

発行日：2013年12月31日

発行者：爆裂風船

連絡先：baku-fu@pop02.odn.ne.jp

HP：http://www2.odn.ne.jp/~bakuretu/

印刷所：あかつき印刷様

禁無断転載・無断複製

18歳未満の方の購読をお断りします。